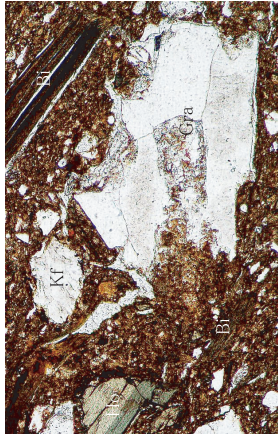
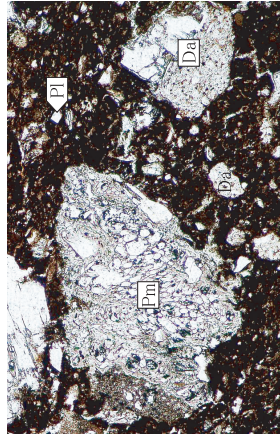


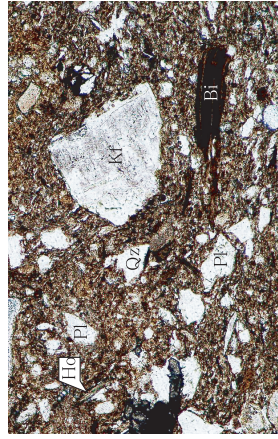
図版3 胎土薄片(3)



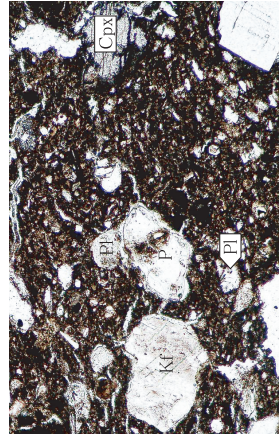
9. 土器No.9 縄文土器 IC126粘土採掘坑 東側3 大木10式期



10. 土器No.10 縄文土器 大木10式



11. 土器No.11 縄文土器 西トレンチ2 II層 中央IV



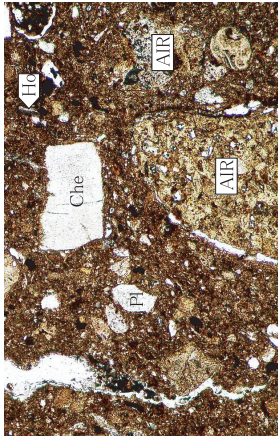
12. 土器No.12 縄文土器 GH68住 3層 円筒上層d~e式

Qz:石英, Kf:カリ長石, Pl:斜長石, Cpx:単斜輝石, Ho:角閃石, Bi:黒雲母, Pm:軽石, Da:アイサイト, Gra:花崗岩, P:孔隙。

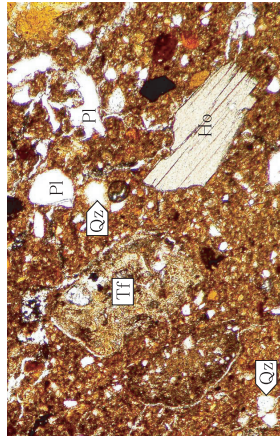
写真左列は下方ボローア、写真右列は直交ボローア下。

0.5mm

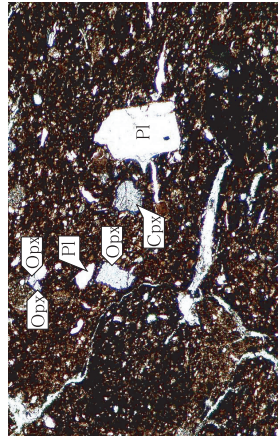
図版4 胎土薄片(4)



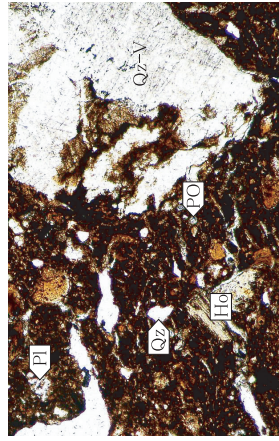
13. 土器No.13 縄文土器 GH68住 2層 円筒上層d式



14. 土器No.14 縄文土器 DF14住 3層 円筒上層c式



15. 土器No.15 縄文土器 西トレンチ1 I層 中央IV 大木8b式



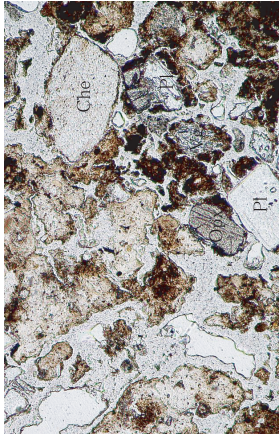
16. 土器No.16 縄文土器 西トレンチ1 FE38 I層下 中央IV 大木8b~9式

Qz:石英, Pl:斜長石, Opx:斜方輝石, Cpx:単斜輝石, Ho:角閃石, Che:チャート, Tf:凝灰岩, Qz-V:脈石英, AIR:変質岩, PO:植物珪酸体。

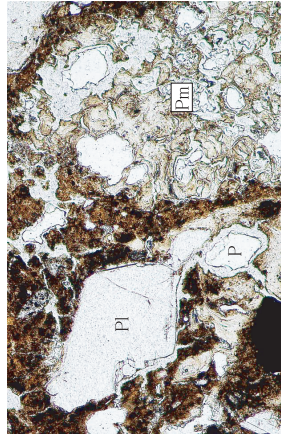
写真左列は下方ボローア、写真右列は直交ボローア下。

0.5mm

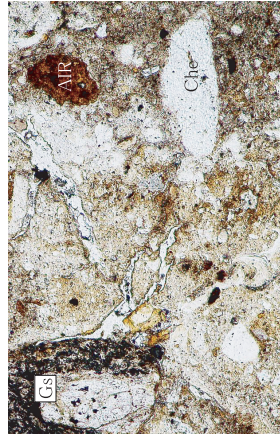
図版5 胎土薄片(5)



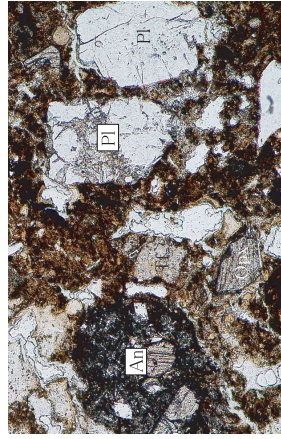
17. 粘土No.1 粘土 HE126住 床上 東側2 大木9式期



18. 粘土No.2 粘土 IC130住 床上 東側3 円筒上層d~e式期



19. 粘土No.3 粘土 IC126粘土探掘坑 床上 東側3 大木10式期



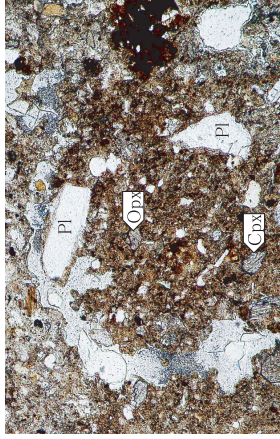
20. 粘土No.4 粘土 GD64住 床上 中央 I 大木9式期

Pl: 斜長石, Opx: 斜方輝石, Che: チャート, Pm: 軽石, Tf: 凝灰岩, An: 安山岩, Gs: 緑色岩, AIR: 変質岩, Vg: 火山ガラス, P: 孔隙

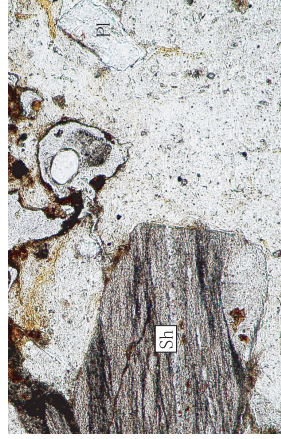
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

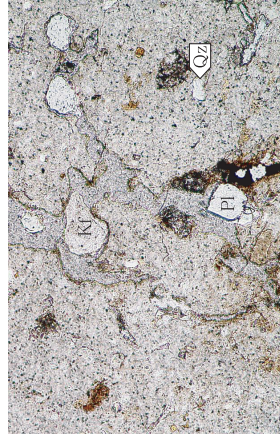
図版6 胎土薄片(6)



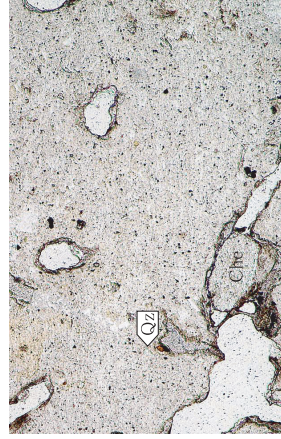
21. 粘土No.5 粘土 FE48-01住 3層 中央 II b 大木9式期



22. 粘土No.6 粘土 DD20住 床上 西側 大木9~10式期



23. 粘土No.7 粘土 IA220住 床上(縄文土器の中に入っていた粘土) 縄文の森トレンチ III 大木9~10式期



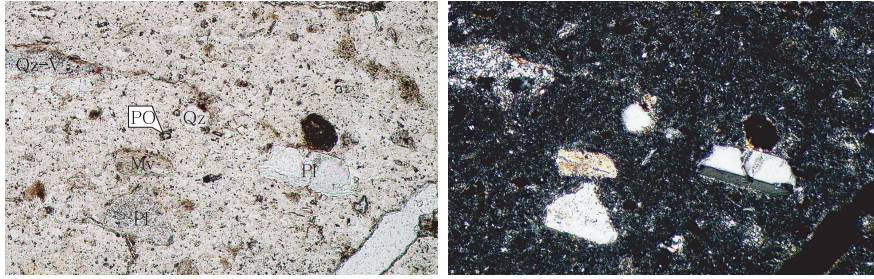
24. 粘土No.8 粘土 IA220住 床面 縄文の森トレンチ III 大木9~10式期

Qz: 石英, Kf: カリ長石, Pl: 斜長石, Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Che: チャート, Sh: 頁岩

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

図版7 胎土薄片(7)



25.粘土No.9 粘土 粘土採掘坑南側セクション 自然層 東側3

Qz:石英, Pl:斜長石, Mv:白雲母, Qz-V:脈石英, PO:植物珪酸体,
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。



0 1:3 10cm

第41図 胎土分析土器

Ⅵ 総括

御所野遺跡における「盛土遺構」の内容や形成過程を把握することを目的として行った平成21～24年度の調査では、まず、平成4・10年度に調査が行われたトレンチ（Ⅳ区）を再掘し、調査を行った。Ⅳ区は、平成4年度調査が行われたFH48・FH46・FJ46・GA44トレンチを含み、平成10年度に設定され、調査が行われたトレンチである。その後、他のトレンチを順次設定し、内容確認を行った。ここでは、4カ年にわたる調査成果について、以下の項目ごとにまとめることとしたい。

Ⅳ区付近の旧地形について

中央部では、Ⅳ区東トレンチからⅣ区西トレンチ1・2に向かうように、東側から続く尾根が南東－北西方向に傾斜している。Ⅴb層上面におけるⅣ区東トレンチとⅣ区西トレンチ2の比高差は約4mを測る。また、Ⅳ区から配石遺構が位置する北側に向かっては、ごく緩やかに傾斜する（第3図）。

中央部における層序とその内容について

FJ46・GA44トレンチでは、中振火山灰（To-Cu）が多量に混入するⅢ層の上に縄文時代の堆積層である①・②層を確認した。

①層は黄褐色土ブロックを主体とし、炭化物粒や土器片、チップが極少量混入する。遺物の混入は客体的である。この黄褐色土ブロックは主にⅤ層起源と考えられ、層厚は5～25cmを測る。また、Ⅳ区西トレンチ1においても①層に相当する黄褐～にぶい黄橙色土ブロックの堆積を確認した。北西－南東の傾斜方向に平行に堆積している。①層を確認した範囲は、東側から続く尾根が傾斜する斜面の頂部に沿うように、北西－南東方向に50～60m、北東－南西方向に10～15mに及ぶ。

②層は黒褐色土を主体とし、中振火山灰（To-Cu）が少量混入するとともに炭化物粒や土器の小片が少量混入する。Ⅳ区東トレンチ及びⅣ区西トレンチ1において確認した②層は、混入物は極めて少なく、鉍物分析では、To-Cuに由来する火山ガラスが比較的多く含まれると報告された。この層はⅣ区西トレンチ2でもわずかだが確認した。層厚は10～25cmを測る。②層を確認した範囲は、北西－南東方向に90～100m、北東－南西方向ではⅣ区付近において20～30mに及び、①層の確認範囲より広範囲である。

遺構について

平成21～24年度に精査を行った遺構は、配石遺構2基、竪穴住居跡25棟、土坑13基、柱穴54個、遺物出土集中箇所3箇所である。このほか、Ⅳ区全域において竪穴住居跡などの遺構と考えられるプランが重複する様子を確認した。北側に向かうにつれて、遺構密度が高くなり、重複も激しい。

竪穴住居跡は縄文時代中期中葉～後葉のものが多い。出土遺物や平面形などから推定される帰属時期は、円筒上層e式期（GF56-01竪穴住居跡）、大木8b式期（FJ46-02、FJ46-03、GA44-01、GE56-01竪穴住居跡）、大木8b～9式併行期（FE38-01竪穴住居跡）が挙げられよう。竪穴住居跡の堆積土はほとんどが人為堆積によるものと考えられ、各種多量の遺物が出土している。

FI46配石は竪穴住居跡の堆積土の上に構築されており、平成10年度調査では、配石遺構の確認面において大木10式の縄文土器片が出土している。

Ⅳ区西トレンチ2はⅣ区やⅣ区西トレンチ1とは様相が異なる。遺物包含層は人為堆積によるもので、遺構の可能性も考えられるが、浅谷斜面に堆積した遺物包含層という様相も看取できる。調査面積が狭いため、結論付けることはできないが、『御所野遺跡Ⅰ』で「中央部北側の遺構群」として、配石遺構北側斜面で確

認されている遺物包含層との類似が考えられ、今後比較検討が必要となろう。

重複する遺構との関係について

Ⅳ区、Ⅳ区西トレンチ1、Ⅳ区東トレンチでは①・②層を掘り込んで構築される竪穴住居跡を検出したが、Ⅳ区FH46・FH48トレンチでは遺構の重複が激しく①・②層ともに確認することができなかった。

Ⅳ区FJ46トレンチで検出したGA44-01竪穴住居跡（大木8b式期）は、①層を掘り込んで構築され、②層中を床面とする。同トレンチで検出したFJ46-02竪穴住居跡（大木8b式期）は②層を掘り込んで構築され、Ⅳa層中を床面とする。Ⅳ区西トレンチ1においても①層を掘り込んで構築されるFE38-01竪穴住居跡（大木8b～9式併行期）を検出した。Ⅳ区東トレンチでは明確な①層の堆積は確認できなかったが、②層を確認し、これを掘り込んで構築されるGF56-01竪穴住居跡（円筒上層e式期）を確認した。

①・②層の時期について

①層や②層からは出土遺物が非常に少ないため、先に述べた竪穴住居跡との重複関係からその時期を推定すると、②層はおおよそ前期後半～中期中葉、①層は中期中葉～後葉に堆積したものと考えられよう。①層は②層と比べ、短期間に堆積した可能性が考えられる。

御所野遺跡における「盛土遺構」の形成過程と今後の課題

Ⅲ層上位で確認した黒褐色土を主体とする②層は、自然科学分析では、「人為的な営力が及んだ堆積物」とされつつも「堆積後の再移動などはなかった」可能性が指摘されている。②層の確認範囲は広範囲に及ぶことも鑑みると、①層と②層の堆積要因は異なる可能性が考えられる。

黄褐色土ブロックを主体とする①層の供給源や形成要因を検討するためには、これまでに調査が行われてきたⅣ区北側に位置する配石遺構や配石遺構の下で確認されている遺構群についての検討が必要であろう。

特に、これまでにⅡa・Ⅱb・Ⅴ区で確認されている中期中葉～末葉の竪穴住居跡やフラスコ状土坑、掘立柱建物跡や多数の柱穴などについて、堆積土や出土遺物の特徴、遺構が構築されている層序の確認、遺構の時期変遷、Ⅳ区で確認した遺構との比較などが課題である。中央部における集落構造についての検討は、今後、「盛土遺構」の内容を検討する際の課題であるとともに、その視点の一つとなろう。さらには、他の遺跡の「盛土遺構」や類例との比較検討も課題となろう。

平成21～24年度にわたる4カ年の調査によって、今後、御所野遺跡における「盛土遺構」の詳しい内容の検討を行っていくためのスタートラインに立つことができたのではないかと考えている。

末筆ながら平成19年度及び平成21～24年度の発掘調査及び整理作業に従事された方々、御指導御協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げ結びとしたい。

〔引用・参考文献〕

- 青森県教育委員会 2008 『三内丸山遺跡34』 青森県埋蔵文化財調査報告書第463集
- 青森県教育委員会 2012 『三内丸山遺跡39』 青森県埋蔵文化財調査報告書第520集
- 阿部勝則 2001 「岩手県内出土の縄文時代中期の器台について」『紀要 X X』 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 阿部千春 2010 「道南の盛土遺構」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—予稿集—』
- 一戸町教育委員会 2003 『田中遺跡』 一戸町文化財調査報告書第46集
- 一戸町教育委員会 2006 『大平遺跡』 一戸町文化財調査報告書第56集
- 一戸町教育委員会 2008 『下地切遺跡・蒔前遺跡・野里遺跡・一戸城跡』 一戸町文化財調査報告書第62集
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 1978 『都南村 湯沢遺跡 (昭和52年度)』 岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第2集
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 1980 『松尾村長者屋敷遺跡(Ⅰ)(遺構編1)』 岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第12集
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 1981 『松尾村長者屋敷遺跡(Ⅱ)(本文編Ⅱ)』 岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第20集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『田代遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第262集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 『力持遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009 『川目 A 遺跡第 6 次発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第525集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009 『戸仲遺跡第 3 次発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第559集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2011 『新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第572集
- 大迫町教育委員会 1986 『観音堂遺跡—第1次～6次発掘調査報告書—』 大迫町埋蔵文化財調査報告書第11集
- 岡村道雄 1979 「縄文時代石器の基礎的研究法とその具体例—その1—」『研究紀要』第5巻 東北歴史資料館
- おかむらみちお(岡村道雄) 2010 「縄文時代「盛土遺構」研究のために」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—予稿集—』
- おかむらみちお(岡村道雄) 2013 「御所野遺跡の縄文時代中期中葉の石器」『平成24年度御所野遺跡調査成果発表資料』
- 小笠原雅行 2008 「円筒上層式土器」『総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション
- 小高町教育委員会 2005 『浦尻貝塚Ⅰ』 小高町文化財調査報告書第6集
- 小保内裕之 2008 「陸奥大木系土器(榎林式・最花式・大木10式併行土器)」『総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション
- 小林克 2010 「円筒土器文化の盛土遺構」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—予稿集—』
- 小林克ほか 2011 『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—資料集—』『三内丸山遺跡などの盛土遺構などの研究』会編
- 齋藤岳 2002 「第2節道具 2. 石器」『青森県史 別冊 三内丸山遺跡』 青森県史編さん考古部会
- 雫石町教育委員会 2012 『小日谷地ⅠB遺跡 平成24年度発掘調査現地説明会資料』
- 菅原弘樹 2010 「貝塚と盛土遺構はどう違うのか?」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—予稿集—』
- 中野幸大 2008 「大木7a～8b式土器」『総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション
- 二戸市教育委員会 1981 『中曽根Ⅱ遺跡発掘調査報告書(本文編)・(図版編)』
- 八戸市教育委員会 1995 『八戸市内遺跡発掘調査報告書7』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第61集
- 宮古市教育委員会 1995 『崎山貝塚—範囲確認調査報告書—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書44
- 盛岡市教育委員会 2008 『柿ノ木平遺跡・堰根遺跡』第1～5分冊
- 松山力 1981 「3 遺跡群の位置及び周辺の地形・地質」『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅰ』 一戸町文化財調査報告書第1集
- 水ノ江和同 2010 「環状盛土と環状貝塚」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—予稿集—』
- 森幸彦 2008 「大木9・10式土器」『総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション
- 八木勝枝 2010 「東北地方縄文時代後晩期の盛土遺構」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—予稿集—』

報告書抄録

ふりがな	ごしょのいせきよん							
書名	御所野遺跡Ⅳ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	一戸町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第68集							
編著者名	菅野紀子・久保田滋子							
編集機関	一戸町教育委員会							
所在地	〒028-5311 岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢24-9 TEL (0195)33-2111							
発行年月日	2013年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ごしょのいせき 御所野遺跡 (中央調査区 Ⅳ区)	いわてけんじのへぐん 岩手県二戸郡 いちのへまちいわだてあざ 一戸町岩館字 ごしょの 御所野	03524	JF20-2013	40度 11分 22秒	140度 39分 02秒	2009.07.15 ～ 2009.11.24 2010.07.13 ～ 2010.12.01 2011.05.09 ～ 2011.12.08 2012.10.26 ～ 2012.12.11	464㎡	盛土遺構の内容 確認のための学 術調査
(縄文の森)						2007.07.02 ～ 2007.09.27	270㎡	遺跡東側の範囲 確認のための学 術調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
御所野遺跡 (中央調査区)	集落跡	縄文	配石遺構 竪穴住居跡 土坑 柱穴	縄文土器 土製品 石器 石製品 動物遺存体 植物遺存体				
(縄文の森)		縄文 弥生 古代	土坑	縄文土器 弥生土器 石器				

一戸町文化財調査報告書68集

御所野遺跡Ⅳ

平成25年 3月22日印刷

平成25年 3月29日発行

発 行 一戸町教育委員会
〒028-5311 岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢24-9
TEL(0195)33-2111

印 刷 永代印刷株式会社
〒028-0811 岩手県盛岡市川目町23-10
TEL(019)623-0111